

各 位

会 社 名 株式会社小僧寿し
 代表者名 代表取締役社長 木村 育生
 (JASDAQコード9973)
 問合せ先 取締役管理本部長 三浦 広義
 (電話番号 03-6226-4400)

連結子会社の特別損失の発生並びに業績予想の修正について

この度当社子会社である株式会社茶月東日本において、下記のとおり特別損失が発生する見込みとなりましたのでお知らせするとともに、平成25年12月期（平成25年1月1日～平成25年12月31日）の業績予想について、平成25年8月6日付け「特別利益及び特別損失の発生並びに業績予想の修正について」発表時の通期業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 特別損失の発生理由

当社連結子会社である株式会社茶月東日本（以下茶月東日本）では、平成24年10月1日より株式会社春陽堂およびその子会社である株式会社茶月から関東における持ち帰り寿し業態「茶月」「神田一番寿司」等の事業を譲受しております。茶月東日本は当社及び当社子会社の株式会社東京小僧寿しとの購買、物流、商品企画、本部業務等での協力体制を取りシナジー効果を得ると共に、直営店舗のFC店舗への転換や不採算店舗の閉鎖を実施し管理費用を削減する等、利益体制の構築を進めてまいりました。事業の収益性は改善の傾向が見られるものの平成25年12月期の業績の見込みが予想に比べ大きく乖離する見込みとなりましたので、のれんの減損損失として348百万円及び有形固定資産等の減損損失として80百万円等を新たに計上し、特別損失として第3四半期連結累計期間で8億28百万円を計上する見込みです。

2. 平成25年12月期連結業績予想の修正について

通期（累計）（平成25年1月1日～平成25年12月31日）の業績予想

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益（円銭）
前回予想（A）	15,720	30	18	36	2.48
今回修正（B）	15,958	21	9	△410	△27.13
増減額（B-A）	238	△9	△9	△446	—
増減率	1.5%	△31.5%	△49.5%	—	—
前期の実績 （平成24年12月期）	20,235	△644	△611	△878	△65.73

3. 修正理由

通期業績予想につきましては、茶月事業の不振はあるものの直営店舗の営業権譲渡を今後見込んでおり売上高は159億58百万円（前回予想比2億38百万円増）を見込んでおります。損益につきましては商材価格の高騰もあり営業利益は21百万円（前回予想比9百万円減）、経常利益は9百万円（前回予想比9百万円減）を見込んでおります。また上記「1. 特別損失の発生理由」に記載のとおり特別損失が計上されるため、当期純損失は4億10百万円（前回予想比4億46百万円減）となる見込みです。

（注）上記の予想は、現時点における経営環境において、入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想値と異なる結果となる可能性があります。

以 上